



小彼岸千本桜

2022.3

NPO法人つるがしま里山サポートクラブ

つるがしま小彼岸1000本桜の取組

はじめに

2017年度(令和元年)から取り組みました「小彼岸1000本桜」の取組は2022年で5年が経過しました。

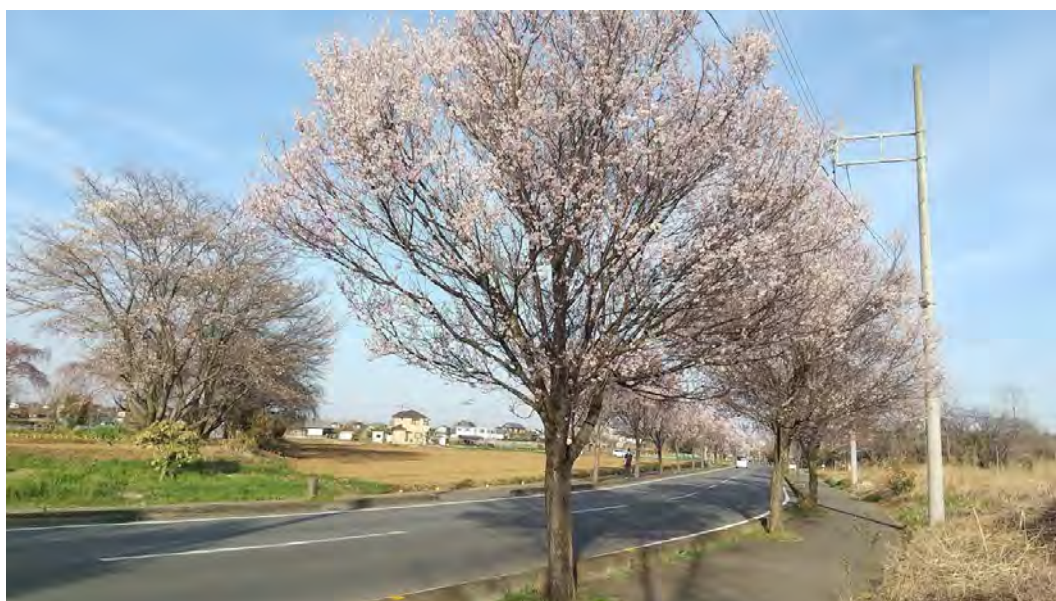
NPO法人つるがしま里山サポートクラブは、市内の主要施設に小彼岸桜を植樹する運動を始めています。

運動は、小彼岸桜の苗木を会員の協力を得て育て、約3年間苗床で育成し、植樹する活動です。植樹の候補地となるのは、市内の公園や水路沿い、池の周りや太田ヶ谷の森などを想定しています。

この5カ年の記録を振り返って、新たな取り組みのスタートとしたいと考えています。

目次

1 千本桜構想のきっかけ	2
1-1橋本一郎さんと小彼岸桜	2
① 東村山市での活動	2
② 鶴ヶ島市での再活動	3
1-2つるがしま里山サポートクラブの取り組みの考え方	3
2 具体的取り組み	4
2-1目標	4
2-2小彼岸桜の挿し木、苗の育成活動記録（初年度～2年度）	4
2-33年目からの主な植樹活動と苗の配布	6
3 小彼岸桜挿し木マニュアル	8
4 今後の取り組み	10



小彼岸千本桜構想のきっかけ

東京都東村山市で2000本、小彼岸桜の苗を育苗し、植樹してきた経験のある方が鶴ヶ島市へ移住され、当市の運動公園北側道路沿いにある小彼岸桜並木を見て、当市でも植樹ができないかとの話が、わがクラブにありました。

1-1 橋本一郎さんと小彼岸桜

① 東村山市での活動

(イ) 挿し木増殖法の開発

小彼岸桜との最初の出会いは、平成9年(1997年)4月に高遠へ桜見物に行き、1本の苗木を購入したことに始まります。一般的に桜の増殖は接ぎ木が主流です。これを「挿し木」ではできないだろうかと思い、その増殖法に取りかかりました。試行錯誤をしながら3年間の歳月を費やし、研究を重ねた結果、独自の「挿し木増殖法」を開発することができました。

(ロ) 「小彼岸の会」を設立

当時は東京都東村山市に在住。1人で「挿し木」植栽を始めているうちに協力してくれる人が徐々に増え、「小彼岸の会」を設立し、公有地、市有地に「挿し木」の方法や植栽等を普及し、更に1,000本植樹を目標に活動しました。

(ハ) 街路樹へ植栽

やがて歳月が経ち、市道に植栽した桜が繁茂し、市役所の窓口部署との協働形態で街路樹(市道さくら通り)の剪定を行ないました。

枝の剪定方法は「フラッシュカット」の方法を取り入れて実施し、切口は5年できれいに塞がりました。(注)フラッシュカット：桜幹より枝を切除する際、切り口をナイフで滑らかにし、融合剤を塗布することで切り口の樹肌を数年間できれいに塞ぐ方法。

(ニ) 駅前の新名所となる花のトンネル

その後は街路樹の剪定は後任の新会長に委ねて全長1.5kmに渡る桜並木へと成長し、今では東村山駅より「コミュニティーバス」が開通し、市民に親しまれる新名所になりました。開花期に遠眺すると「花のトンネル」に見えて、植栽当時の夢が花開きました。



さくら通りの小彼岸桜並木 前方は東村山駅

(ホ) 市内の公共施設へ植栽

会員の皆様も桜並木に自信がつき「小彼岸の会」の活動は更に2,000本目標へと弾みがつき「挿し木」植栽、定期巡回剪定と活動内容を広げて東村山市立の小中学校、公園、保育園、多摩湖堰堤下、都立公園、多摩湖遊歩道、空堀川馬頭橋右岸等にも植樹しました。

(ハ) 鶴ヶ島市への移住

その後、2,000本目標達成に残り数10本となった処(3年生苗:1190、育苗中2年生苗115本)で、私は「終の住処」を求めて鶴ヶ島市に移住を計画し、2年間迷い苦渋の決断をして平成28年4月に移り住みました。

② 鶴ヶ島市での再活動

(イ) 鶴ヶ島市で小彼岸桜に再会

鶴ヶ島市に転居し市内を巡回しているうちに、鶴ヶ島市立運動公園の北側東西1 kmに「小彼岸桜」が植栽されていてびっくりし、「夢の感動」でした。

(ロ) 当クラブへの参加

この桜より穂木を採集し「挿し木」をして苗を育成して、その後、市内へ植樹することについて当クラブと相談した結果、当クラブの賛同を得たので「つるがしま里山サポートクラブ」に入会しました。



1-2 つるがしま里山サポートクラブの取組の考え方

当クラブは2003年、市内にある里山・樹林地を保全し、次の世代の子供達に継承していくことを目的に設立されています。活動の場は市民緑地制度(注1)による“市民の森”で既存の里山・樹林地を管理・整備する事業として継続した取組を行っています。

日本サクラの会などの寄贈によるサクラの植栽、枝打ちや老木の伐採、樹林地の除草、遊歩道の整備、市民の森を利用した各種イベント開催などに取組で来ました。里山整備のノウハウや経験は20年の実績がありますが、テーマを定めて植栽活動に取り組んだことはありませんでした。

橋本さんからの提案により、「小彼岸1000本桜構想」というテーマで継続的に取組で行くこととし、2017年より取組みを開始しました。

(注1)市民緑地制度:土地所有者の申出に基づき、地方公共団体または都市緑地法第68条第1項の規定に基づく緑地管理機構が当該土地等の所有者と契約を締結して、一定期間 住民の利用に供するために設置・管理する制度です。

2.具体的取り組み

桜に新たな命を吹き込む

2-1目標

会員の皆様の協力を仰ぎながら小彼岸桜の挿し木、苗の育成、植栽、苗木の無料配布、そして「フラッシュカット」（枝の剪定方法）の普及と、1,000本植栽を目標に市内を主体に、県内の至る所に植栽を続けていきたいと思えます。

2-2小彼岸桜の挿し木、苗の育成活動記録（初年度～2年度）

2017年5月 運動公園北側道路沿いにある小彼岸桜並木から市役所の了解を得て新芽を採取し、採取した新芽を里山会員宅で育苗することを開始しました。

6月 1回目は全滅となったので、6月に2回目を実施（初年度の実績は、200本を会員宅で育苗した結果、1年後に生存できたのは13本という結果で育苗の難しさを実体験することとなりました。）



新芽のある桜枝を剪定
フラッシュカットで保護



新芽10cm程度に切り取り
発根剤を塗布



1鉢に7本の苗木を植え、
ビニール袋をかけ、会員が
持参した。

2018年2月 会員が自宅で毎日灌水し、9か月間育苗したものを畑に移植しました。枯れているものが多かったが、計44本を移植することができました。（樹高20cmのものを秋の落ち葉までに畑で1.5mに成長させることができました。）

2018年5月 2年目の苗木を育成する場所を正式に確保することが必要となり、里山会員の菜園地に育成場所を確保することができた。

2018年6月 配布用の根巻作業の実施

注）根巻作業：掘り出した桜の根に土を入れた麻布を巻き付け、運搬できるように再度埋めなおす作業(仮移植)



会員が自宅に搬送し、
水やりを開始



育った苗を畑に仮植える。



仮植え完了

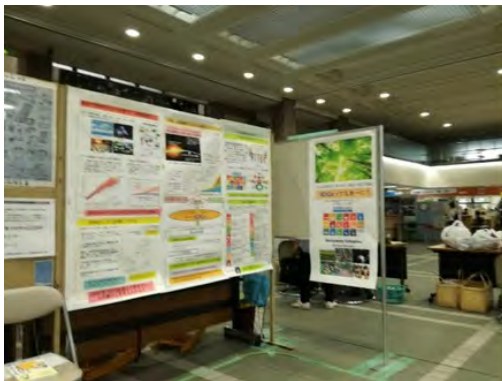
再度埋めなおす作業(仮移植)



小彼岸桜への取り組みは上記のように初夏5月に新芽を採取し、鉢植えを作り、会員が自宅で主に水やりをしながら育成し、翌年2月頃畑地に移植する。更に3月、植樹場所(定植)に搬出できるよう根巻作業を実施するというルーチンを繰り返す作業となります。

2-3 3年目からの主な植樹活動と苗の配布

2019年6月 市役所内で開催された「環境祭り」で市民の方に27本、3年目の育成苗を配布しました。2020年4月 東市民センター内広場で桜植樹祭を実施



環境祭りの展示



小彼岸苗の配布



東市民センターで市長参加による桜植樹祭を実施



2020年4月 千本桜構想の決定(第16回里山サポートクラブ定期総会)

- 鶴ヶ島を魅力ある街にする。

近隣地域には日高市の曼珠沙華、東松山市のボタン園等があり、市民の皆さんに親しまれ、また、各市の観光資源ともなっています。わが鶴ヶ島市では「高倉菜の花まつり」とともに「桜まつり」が37回目と継続開催されており、桜の園の充実はわが故郷の誇りとなる。

- 小彼岸桜を植樹する。
- 運動公園には約200本の桜がある。隣接する旧農業大学校跡地に大規模な公園構想があり、千本桜の集約地としての具体化に取り組む必要がある。

2021年4月 旧農業大学校跡地に開園した「鶴ヶ島グリーンパーク」内に5.5haの「太田ヶ谷の森」ができ、同年4月に「太田ヶ谷の森」の北側道路沿いに59本の小彼岸桜を植樹しました。また、北側道路沿いに進出した企業IHIは桜構想に賛同され、道路沿いに小彼岸桜を植樹する計画であり、道路をまたぐ桜のトンネルができる予定です。北側道路沿いにある小彼岸桜並木は植樹してから20年になりますが、樹高は5m以下でソメイヨシノのような大木とならず、市の桜として定着していることから、千本桜の種類を小彼岸桜とする。



道路沿い植樹苗

小彼岸桜の植樹

太田ヶ谷の森開設記念植樹

「太田ヶ谷の森」に植樹した苗木に2脚鳥居を4月に29本、10月に30本を設置しました。



2021年 4月24日 大橋市民センターでの植樹

2021年9月26日に太田ヶ谷の森で、鶴ヶ島市制30周年記念植樹祭式が行われました。式典終了後に参加した39家族約100人の市民の皆さんに記念植樹を実施しました。



記念式典

記念植樹

市民の記念植樹

2022年4月 「太田ヶ谷の森」の蓮池北側道路沿いに30本を植樹する計画です。また、「太田ヶ谷の森」から運動公園に向かう道路沿いにも植樹する計画です。

2022年2月現在、小彼岸桜配布本数は合計177本となっており、今後も拡大・普及を図っていきます。

(今までの配布先：市民センター、支え合い協議会、市民活動団体、会員関係者等)

3.小彼岸桜挿し木マニュアル

1年目作業

1.挿し穂採取



○桜の2年目の枝から今年発芽した新芽を採取



○切り取った枝元に融合



○新芽枝の選別



○新芽枝の剪定



○新芽枝の採集



鉢植え

○苗床準備



○用土瀬調合

底部：赤玉大
中部：赤玉中・小、腐葉土
上部：鹿沼土小、細粒



○採取した新芽が生育できる苗床を準備

3.挿し穂の植え付け

○挿し穂の剪定



○植え付け(挿し穂に発根剤塗布)



4. 苗床管理

○ 家での管理方法

- 鉢設置場所は風当たりの強い場所を避ける。
- 持ち込み後、毎日灌水する。
- 灌水時、水圧で苗が動かないよう注意する。
- 湿度70～80%、苗床気温25度前後がベストであるので必要に応じ気温が35度以上になる時は遮光ネットを利用する。
- 鹿沼土が全般的に白くなったら必ず腰水灌水する。（鉢を上部まで水の張ったバケツ等に漬ける。）
- 月1回の施肥

秋になると枝葉の成長が止まるので施肥はしない。紅葉、落葉、越冬となる。冬の低温、凍結、霜害に注意。

2年目作業

5. 露地畑へ移植

- 会員が生育した1年目苗を脚折菜園へ移植（2月中旬頃）



6. 根巻作業

- 3年目に近づく苗の根に麻布を巻き、出荷できるようにする。（3月下旬）



3年目作業

7. 移植



- 3年目の若木として公園等の移植先に定植

- 2脚鳥居の設置



定植後の管理(徒長枝切除 フラッシュカット 融合剤塗布、消毒実施)

1. 徒長枝切除:若木は生長が旺盛になり、徒長枝が繁茂するので切除が必要になります。大きくならないうちに毎年フラッシュカットの方法で行います。
2. 空間の確保:街路樹として植樹したときは道路は地上より4m、補導は3mの空間をとり徒長枝の切除が必要となる。
3. 若木の管理::樹姿を考えて中側の枝の整理、枯死枝切除が必要留中側の枝切除もフラッシュカットを実施
4. 桜の管理:長年管理にはフラッシュカットの実行、融合剤塗布を必ず厳守して続けて50年あるいは277年または1000年も成長するでしょう。
5. 太田ヶ谷の森:1エリアに小彼岸桜を植樹し、お花見の場所として広場に人々が集まります。景観設計を期待し、3000本の苗木を植樹するように頑張りましょう。



鶴ヶ島市には、国道407号の桜並木や運動公園の桜はお花見シーズンには、桜祭りなどで賑い、地域ではそれなりに有名となっているが、観光名所になるまでにはなっていない。

そこにつらなる、小彼岸桜の並木や運動公園から太田ヶ谷の森につながる「桜の名所」なども考えられる。太田ヶ谷の森の一部に小彼岸桜のゾーンになるように植樹し、お花見場所として人々が集まる場所づくり。次なる目標は、2000本としたいものです。

これらの活動は、「太田ヶ谷グランドワークス」など市民、団体、事業者等の参加による植樹活動として取り組んでいきたいと思えます。



フリー百科事典「ウィキペディア」より

コヒガン（小彼岸）はバラ科サクラ属のサクラで、広義ではマメザクラとエドヒガンが交雑した種間雑種の総称。樹形は盃状、樹高は亜高木で大木にならないため、庭植えや切り花に向いている。一重咲きで淡紅色の花を咲かせ、東京の花期は3月中旬頃で春の彼岸頃には花が咲くことからコヒガンと命名されている。花色はソメイヨシノよりも濃い。



NPO 法人 つるがしき山サポートクラブ

この冊子は公益財団法人イオン環境財団の助成を受けて印刷しています。